

題　　言

土木建築の精粹

明治維新の難局は日本が世界的に國運の消長を決すべきの瀬戸際であつた。支那朝鮮にさへ馬鹿にされた日本が後年世界の一等國に列した事はそれ丈の國民的素質があつた事こそ云へ、明治天帝の一世を貰く偉大なる帝王的人格の善導の賜である。我々國民は明治天帝の鴻業を一日も忘れる事は出來ない。我々は實に今日其御偉業の中に生きてをるのである。

明治神宮御造營の事あるや、地方青年團員は振つて其工事に奉仕せん事を申出たのである。而して本誌本號より紹介せんとする神宮外苑の諸工事は又實に日本全國の國民が奉賛の獻金によつてなるものである。

而して外苑の諸工事は道路と云ひ、庭園と云ひ、建物と云ひ、何れも皆我國の最高知識を蒐めたもので明治文化の代表物である。此の各工事が後代幾多の参考となるべきは言を俟たない、今竣工に近き此の工事に對し我社は敬虔なる態度を以つて卷頭の編輯に臨むものである。

近　時　斷　片

1

丹那トンネルが鐵道幹線として危険なりと云ふ説をなす時事紙の論は如何なる技術的根據あるか知らざれども、同紙が常に丹那トンネル工事に注意を拂ひつゝある事は新聞紙の態度としては珍らしき事である。

2

英國のホルト、トーマスと云ふ人は十時間の間に四室の住宅を建造した。驚くべき早業である。然し之は準備さへ用意周到に出來てをれば日本人としても出来る事である。能く準備せよ、迅速にやれ、之が我等の現場訓である。

3

急に應じては完全なる仕事は出來ぬ。如何に財政貧弱でも一時の間に合せ仕事は避けねばならぬ、從來此の姑息手段の爲め國家の蒙る損害は莫大であつた。國家が技術的に相當の大計を實行するには目下の如き勞力と材料の豊富なる時が最も好い時機である。内務省來年度の土木的計劃は京濱運河、全國の自動車道、河川水量調節の調査等一として良案ならざるはないが、此の良案實行の勇猛努力果して何人の腕に待つべきか。